

令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

越前市 教育委員会

No	学校名		成 果
1	武生東	小学校	マラソン記録会の各学年の平均タイムを昨年と比べると、1学年を除いて10秒以上縮んだ。また昨年と同じ距離を走った偶数学年でも20秒以上縮んだ。スポーツタイムで走る回数が増えたことや、学年ごとに走った距離などを知らせるなど意欲の向上を図ったことが、この結果につながったと考えられる
2	武生西	小学校	体育で縄跳びを行った際には、タブレットを用いて回数を記録した。児童が自分の伸びを実感できるようにするとともに、その都度自分の目標を見直すようにした。その結果、意欲的に縄跳びに取り組む児童が増えた。多くのクラスでは、学級の3分の1程度の児童が休み時間にも縄跳びに取り組んでいた。
			時間走にすることで、長距離が苦手な児童も自分なりの目標を決めて練習を行うことができた。記録会が終わった後の振り返りでは、「自分の目標を達成できてうれしかった」や「これからも体力をつけていきたいと思った」など前向きな振り返りが多く見られた。
			タブレットの動画機能は、器械運動など、自分の動きを確認する際にとっても効果的だった。自分の動きを確認することで、ペアでの話し合いが活性化し、技能の向上につながった。
3	武生南	小学校	今年度の体力テストのA判定者は21.8%と昨年度より4ポイント上昇した。また、昨年度課題に見られたボール投げやシャトルランの記録は、県の平均を2つの学年が突破し、全体的にも記録の向上が見られた。引き続き、投運動を中心に継続的に取り入れていきたい。
4	神山	小学校	今年度の体力テストの結果を見ると、全ての学年においてシャトルランテストが全国平均値よりも優れていた。週に1回の持久走活動を昨年度から実施したことにより、持久力の向上を図ることができた。 体育館の割当を行ったり、ボールを学級ごとに配付したりしたことで、休み時間にサッカーや鬼ごっこなど体を動かして遊ぶ児童が増えた。
5	吉野	小学校	コロナ禍においても、授業で時間走に取り組んだり、なわとび大会に向けてフリータイムで練習を定期的に入れたり、各学年になわとび目標重点種目を設定し取り組んだりして、意欲的に取り組む姿が見られた。結果、学校評価での「体力向上に取り組む」において、意欲的に体力づくりに取り組む児童が目標の80%を上回る91%を得られた。
			年間を通して、準備運動や授業の中で基礎体力向上に努め、体力テストの長座体前屈においては、ほぼ全学年が全国平均値を上回ることができた。
6	大虫	小学校	握力や体幹トレーニングを続けたことで、昨年度の課題であった“握力、上体起こし”の数値は全体的に向上しており、改善が見られた。 学習の成果を発揮する場を増やし、成績上位の児童を表彰したことで、体育的活動に対する意欲が上がり、目標をもって練習に参加するようになった。
7	国高	小学校	体力テストの数値結果では、昨年度に比べて5・6年生の結果がすべての種目において上回った。特に、20mシャトルランにおいて、平均回数が4回以上上回り、持久力向上が見られた。 また、行事のスタイルや休み時間の過ごし方のバリエーションを増やすことにより、各自が目的意識を持って大会や自由あそびに参加していた。特に、普段運動が苦手な児童も、走る距離の目標達成に挑戦したり、進んでバトンパスの練習に取り組んだりするなどの変容が見られた。
8	坂口	小学校	体育の授業などでタブレットを使用し、個人カード等でめあてを考えたり振り返りを行ったりし、考えて運動に取り組む児童が増え、「進んで運動や体を使った遊びに取り組んでいる」という児童への質問において、10割の児童が、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した。

9	王子保	小学校	<p>動画サイトのお手本動画や上手なクラスメートと自分の動きを見比べることで、自分の改善点を具体的に考えて取り組む児童が増えた。</p> <p>業間運動ではワークシートやビンゴカードを用いることで前向きに取り組む児童が増えた。</p>
10	北日野	小学校	<p>体育の準備運動の中に、例えばドッジボールや握力を鍛えるゲームなど、ゲーム形式にして児童に力がつくようにした。</p> <p>ICTを活用することで、児童の運動への意欲は向上した。また、客観的に自分の動きを見たり、友達とポイントを見直したりすることで技能の向上も少なからず見ることができた。</p>
11	北新庄	小学校	<p>業間運動を委員会や教員が積極的に呼びかけたことで、「休み時間に外で体を動かして遊んだ」の項目において、83%の児童から肯定的な回答が得られた。</p> <p>昨年度の課題であった「持久走」の項目では、6学年の男子を除いて、全国平均(Tスコア50)を上回ることができた。</p>
12	味真野	小学校	<p>業間マラソンカードに、各自で目標を設定させたり、校内掲示に走った周(30周・50周・100周・150周)に応じて自分の名前を貼ったりすることで意欲的に走る児童が増えた。全校児童の約46%は100周走ることができた。学校評価においても、「進んで体を動かしている。」と答えた児童が93%だった。</p>
13	白山	小学校	<p>感染対策を意識した上で、業間運動を計画的、継続的に行い、運動を楽しみながら、なおかつ運動量を確保することに努めた。その結果、4～6年生が行った体カテストの結果でも、全種目の75%で全国平均よりも上回る結果を残すことができた。特に、20mシャトルランは全学年全国平均を上回った。</p>
14	南中山	小学校	<p>体育科の授業で児童が意欲的に取り組めるように指導したり、天気の良い日は外遊びを奨励したりしたことで、児童用学校評価アンケートの「体育の時間や休み時間に進んで外遊びや運動をすることができましたか。」という項目で、「できた」「少しできた」と回答した児童が92%であった。</p>
15	花筐	小学校	<p>ディスタンスを取りながら個人で実施できる本校独自の準備運動プログラムを作成した。準備運動に加え、かえるの足うち、ボックスステップ、腕立て時計回り、体幹トレーニングなどを含む準備運動を年間を通して実施することで、児童の100%が約5分のプログラムを実施することができるようになり、運動の基礎・体力の向上を図ることができた。</p>
16	服間	小学校	<p>体育の授業での個に応じたワークシートやデジタルコンテンツの活用、業間運動の設定、カード活用、全校遊びの企画などにより、児童用学校評価アンケートの「体育の授業、休み時間の遊び、業間体育をがんばっているか。」という項目で、「あてはまる」「おおむねあてはまる」が95%となった。</p>
17	岡本	小学校	<p>年間を通して体力を高める運動に取り組んだことで、持久力は県平均や自校の昨年度よりも数値を高めることができた。</p> <p>進んで運動しようとする子の育成のため、スーパードッジボール大会や市器械体操大会への参加を促し、多くの児童が進んで運動に取り組もうとする姿を見ることができた。</p>